

容疑者側に約150万円振り込みも ALS患者囑託殺人

会員記事

2020年7月23日 20時18分



移送される山本直樹容疑者（中央）=2020年7月23日午後2時23分、京都市下京区、筋野健大撮影



全身の筋肉が衰える難病「筋萎縮性側索硬化症」（ALS）の女性患者から依頼を受け、京都市内の自宅で薬物を投与して殺害したとして、京都府警は23日、宮城県名取市でクリニックを開業する大久保倫一（よしかず）容疑者（42）=仙台市泉区=と、東京都港区の医師、山本直樹容疑者（43）を囑託殺人の疑いで逮捕し、発表した。2人は女性の主治医でなく、SNSを通じて知り合ったとみられる。

発表によると、2人は知人を装い、ALS患者の林優里さん（当時51）が暮らす京都市中京区のマンションを訪問。昨年11月30日午後5時半ごろ、薬物を投与し、殺害した疑いがある。

捜査関係者によると、林さんは一人暮らしで、介護が24時間必要な状態だったという。ヘルパーが異変に気づき、連絡を受けた主治医が119番通報。搬送先の病院で死亡が確認された。検査で薬物反応があったことから府警が捜査し、ふだん服用していない薬が投与されていたことがわかった。防犯カメラの映像などから2人が浮かび、山本容疑者側の口座に、林さん側から150万円前後が振り込まれていたことも確認されたという。

林さんのものとみられるブログやツイッターには「こんな姿で生きたくないよ」「安楽死させてほしい」などと書き込まれていた。一方、大久保容疑者のものとみられる匿名のツイッターアカウントには「死にたい奴に苦痛なく死なせてやることはできるのだが、後がめんどくさいからな」などと投稿があり、林さんが死亡した同30日前後には、安楽死についての言及がたびたびあった。同容疑者は宮城県名取市の「おおくぼ呼吸器内科・メンタルクリニック」で院長を務めていた。

大久保容疑者の妻で、元衆院議員の大久保三代氏（43）は23日、名取市のクリニック前で報道陣の取材に応じ、容疑者が「よく県外へ短期間、医療行為をしに行っていた」と明かした。

「安楽死」を巡っては、末期がん患者に塩化カリウムを投与し、殺人罪に問われた医師への判決（1995年、横浜地裁）で、例外的に延命中止が認められるケースとして、①死が避けられず死期が迫っている②耐え難い肉体的苦痛がある③苦痛を除く方法を尽くした④患者本人が安楽死を望む意思が明らか——の4要件が示された。

京都府警は今回の事案は死期が迫っているような状況になく、4要件を満たさない上、2人は主治医でない▽金銭を受け取った後に初めて訪れた——ことなどを挙げ、「安楽死にはあたらない」と判断した。

筋萎縮性側索硬化症（ALS） 筋肉を動かす神経が障害を受けることで、全身の筋肉がやせ、筋力が低下していく病気。進行の速さには個人差があるが、人工的な呼吸補助がないと生命を保つのが難しくなることが多い。進行を抑える薬はあるものの、根本的な治療法は確立しておらず、遺伝子治療などさまざまな研究が試みられている。現在、国内には約9千人の患者がいるとされる。